

第102回スタディグループ分科会(2022年度WG3発表会)結果報告

運営委員長 田島 洋

(文責:平野)

1. 開催日時 2023年2月9日(木) 14:30~17:00
2. 開催場所 文京シビックセンター3F アカデミー文京 会議室② (Zoomオンラインとの併用)
3. テーマ 「複数社の監査役を兼務する場合の監査の実態とそのリスクを考える」

4. 発表者

リーダー 岡 威夫 氏 ケアパートナー(株) 常勤監査役
メンバー 市川加代子氏 東京北辰法律事務所 弁護士
山田 諭 氏 (株)王子機能材事業推進センター
コーディネータ 平野俊章氏 (株)日経サイエンス 監査役

5. 出席者 35名(会場リアル参加13名、Zoomオンライン参加22名)

6. 事前配布資料

・事前配布用パワーポイント

7. 発表と質疑の内容

1) 主な発表内容

- ① アンケートご協力のお礼、メンバー紹介、WGの議論の経過と本日発表の概要を説明。アンケートの回答は100%子会社の監査役を複数やっている(いた)中での問題に概ね集約される。(岡氏)
- ② 自己紹介と会社の概況、監査体制を山田、市川、平野、岡氏の順で5分程度説明(司会は山田氏)
- ③ 討議の結果を、(1)日常業務としてどのように効率的に取り組むか、(2)不祥事が起こった時はどのように対応するのか、(3)不祥事が起こった時の責任をどう規定しておくかの順に説明。(岡氏)
- ④ アンケート結果を紹介、特にフリーアンサーを分類、まとめたところを中心に説明。(岡氏)
・複数社の監査役を兼務しているためにやりにくさを感じている点は ・1社で不祥事等があった場合に他社の監査との調整は ・複数社の監査を効率的に行うためのポイントは ・求めたい支援策は
【15分休憩、質問記入】

2) 質疑、感想(司会は山田氏)

- ① 発表者の皆さんは非常勤で、会社に常勤監査役はいないようで、取締役との面談など、いわゆる普通に監査役がやる業務は、非常勤でも全て行われていると思っていいのか。(この質問に関連して、取締役会以外の会議への出席はどうしているか、コロナでオンライン会議が増えたことの利点は)
- ② 親会社の監査役または内部監査部門との連携について教えて欲しい。子会社には内部監査部門がない場合も多いと思うが、親会社の内部監査との連携で工夫されている点があれば聞きたい。
- ③ 今回のテーマは、今まで意識したこと無かったテーマで興味深いと思って出席した。発表を聞いて、複数会社の兼務をするというのいくつかパターンあることがわかった。3つくらいにパターンが分かれるのかと。パターン分けをしたうえでの分析はされたのか、そういう問題意識はあったのか。
- ④ (回答を聞いて)興味深いテーマでもあるし、パターンごとの違いなど今後突き詰めて欲しい。今回は効率化というのがテーマだったが、別の切り口もありそうな気がするし、ぜひ深掘りして欲しい。

- ⑤親会社と子会社の監査役を兼務した経験から、子会社自身の内部統制上の課題や経営リスクは当然あるが、親会社監査役が目線がどうしても優先され、重要性の観点からあまり時間はかけられないという、この辺のバランスをどう見るかということについて、今日聞けたらいいなと思っていた。
- ⑥アンケートのQ7で、監査方針を決める基準として「会社の経営実態」を挙げた人が一番多く、経営実態の中でも「業績」(赤字か黒字か)を選んだ人が72%と非常に多い。発表者の皆さんはどう解釈しているか。
- ⑦事業設立からある程度年数が経った子会社と、比較的新しい、なおかつ事業や業績が急激に変化するような会社とでは、子会社とか複数会社を監査するにしても、監査の見るべきポイントが結構違うのかなと感じた。この辺りの切り口というのも、もう少し詳しく今後調べ欲しい。
- ⑧複数会社の監査役については、メリット、デメリットという視点もあるのかなと言う感じがした。3、4社なら親会社の監査役が自ら兼務した方がわかりやすいが、20、30となれば無理。兼務する会社がグループ会社なのか、全く違う業界なのかにもよるし、兼務できる数にも自ずと限界があるかと思う。
- ⑨同感だ。親会社の常勤監査役と、親会社の一部機能が独立した子会社の監査役を兼務しているからは、親会社を見ていれば状況や課題が透けて見え、効率よく監査ができるが、グループ会社でも全く違う事業をやっている会社の監査役を兼務するのは相当大変だと思う。兼務できる社数についても、いろいろなパターン、条件分けて見ていくと、違った観点から見方ができるのではないかと思う。

【以下は、発表者から参加者への質問に答えての参加者の意見、感想】

⑩100%子会社ではない会社の監査役の経験について

- ・他社が支配株主の会社の非常勤監査役を務める際、うちとはやり方が違うことを心配したが、逆に気付きがあり、いいところは別のグループ会社でも提案するなど、むしろメリットの方が多いと感じる。
- ・M&Aの関係で100%出資ではない会社の監査役を務めた際に、少数株主と親会社の利益が相反する場合があります、親会社の執行側にシビアに物言わなくてはいけない立場になった経験がある。

⑪監査役の兼務は何社までという基準を持っているかについて

- ・非常勤監査役も、社外取締役も女性の適任者が少なくて苦労している。当社の場合、兼務社数の基準は特にないが、3～4社が限度では。総会での機関投資家の賛成投票基準もあるようなので。

⑫アンケートの結果から、これは取り入れていきたいという項目があるかについて

- ・回答ごとに会社なりの背景があり、親会社－子会社関係、海外展開を盛んにやっているかなど監査役が置かれた立場や状況によって変わってくると思うので、何らかの類型化ができると、各項目との関係がうまく分類でき、より有用なものになっていくと思う。
- ・複数会社の監査役で特に気を付けておきたいと感じたのは、いろいろな違いをある程度認識し、違いを踏まえて、監査計画を立て、監査リスクがどこなのかを正しく分析していくことが大事だということ。起業からの年数による事業の確立度の違い、企業文化・風土の違い(例えばM&A)、海外子会社に関しての商風土の違い、業務ツール・システムの違い、事業によるリスクの違いなどを捉えて、監査計画の中で、実際の往査の中で注意していくことが重要かと感じた。

3)まとめ(岡氏から)

改めてアンケートにご協力いただきありがとうございました。発表を予定より30分早く繰り上げて終わらせたことで、十分に質疑応答ができて我々としては満足しています。先輩方からいろいろな観点で宿題をいただいたので、私がやるかは別として、スタディグループの項目としてはぜひこれを継続して分析できたらいいなと思っています。

8. 田島委員長より連絡事項

・今期のSGはあと2回。次回は5週連続の最終回、2月15日(水)14時30分～17時。WG5の発表、テーマは「企業成長のための監査役活動」。明日が締め切りなので申し込みをよろしく。

以上